

1. 評価結果概要表

作成日平成 22年 3月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	0290500032		
法人名	社会福祉法人 柏友会		
事業所名	グループホームふくうら		
所在地 (電話番号)	〒037-0022 青森県五所川原市梅田字福浦349番地2 (電 話) 0173-33-6056		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年2月1日	評価確定日	平成22年3月11日

【情報提供票より】(平成 22年 1月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 19年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13人, 非常勤 5人, 常勤換算	13.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	6,000 ~ 冬期9,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780 円		

(4) 利用者の概要(1月 5日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78.6 歳	最低 68 歳	最高 90 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川崎胃腸科内科医院、布施病院、成田歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道101号線より少し入った、住宅に囲まれた静かな場所に立地している。管理者、職員が作成した事業所独自の理念を入居者と共有し、気兼ねのない、関連な生活の営みが感じられ、全体的に暖かい雰囲気が伝わってくる。地域住民からの、介護や認知症に関わる相談等もあり、地域密着も進んでいる。今後とも多様な意見を取り入れ、地域にとってかけがえの無い事業所になることが期待されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は特になし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	管理者は職員会議で評価の意義を説明し、理解したうえで全職員で自己評価を作成している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目	運営推進会議は定期的開催され、グループホームの取り組みについて説明している。会議では積極的に意見交換され、その内容はサービスの向上に活かしている。運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターや消防関係者等の参加も呼びかけ、多様な意見を求める工夫について期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族の面会時に苦情や意見等を聞き、苦情は早期解決に努めている。玄関には苦情箱や切手を貼った封筒を用意することで意見が出しやすいよう配慮されている。また、事業所以外にも苦情受付窓口がある事を説明している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近隣の方とは日頃から気軽に挨拶を交わしている。また、自治会の一員として諸行事に参加し、地域住民と交流を図ることで事業所や認知症に対する理解が進んでいる。近所の方からは温かい言葉掛けがあったり、差し入れをしていただくこともある。介護や認知症についての相談を受けたりと地域での認知症理解の普及活動に取り組んでいる。 社団法人青森県老人福祉協会

2. 評価結果(詳細)

外部評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「笑顔とやさしい言葉で接し、清潔で明るい環境の中で、自由な生活が出来る様に支援します」という事業所独自の理念を職員全員で作っている。さらに「自由な生活とは」を文章にまとめ、事業所内に理念と一緒に掲示している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎朝、申し送りの時に理念を唱和している。理念は職員の名札の裏に書かれており、いつでも確認することができ、その内容を念頭において毎日のケアにあたっている。
2. 地域との支えあい				
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。		近隣の方とは日頃から気軽に挨拶を交わしている。また、広報活動を行うとともに地域の行事に積極的に参加し、地域住民と交流を図ることで事業所や認知症に対する理解が進んでいる。近所の方からは温かい言葉掛けがあったり、差し入れをいただくこともある。職員がキャラバンメイトとして介護や地域の認知症理解の普及活動に取り組んでいる。

外部 評価		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員会議で評価の意義を説明し、理解したうえで全職員で自己評価を作成している。改善点についても職員で話し合い、改善に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催され、グループホームの取り組みについて説明している。会議では積極的に意見交換され、その内容はサービスの向上に活かしている。	○	運営推進会議のメンバーに、地域包括支援センター・消防関係者等にも参加を呼びかけ、多様な意見を求める工夫について期待したい。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	届け出等で市役所を訪れた際は、市の担当職員と交流を図っている。運営やサービスについて質問や相談をし、市の担当職員と共に課題解決に取り組んでいる。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり、内部研修を実施するなど学ぶ機会を設けており、必要な入居者には支援できる体制がある。また、実際に利用している入居者がいるため、職員は制度をよく理解している。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について研修で学ぶ機会があり、申し送りや会議等でも話し合いをしている。小さな事でも報告し、見過ごされることがないように職員間で連携しながら虐待防止に取り組んでいる。		

外部評価		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書に基づき、本人や家族の不安、疑問点を確認しながら説明し、理解と納得が得られるよう努めている。また、事業所で出来ること、出来ないことを明確にし、理解していただいている。		
10	12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	急変や緊急の時はすぐに連絡している。それ以外は、月1回発行している通信で暮らしぶりや職員の異動について報告している。また、家族が面会に来た時にも近況を伝えている。		
11	13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に苦情や意見等を聞き、苦情は早期解決に努めている。玄関には苦情箱や切手を貼った封筒を用意することで意見が出しやすいよう配慮されている。また、事業所以外にも苦情受け付け窓口がある事を説明している。		
12	16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への影響を考えて、職員の異動は最小限にしている。異動の時には、お別れ会や歓迎のお茶会を開き、入居者へ紹介している。		

外部評価		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修のほか、外部研修にも積極的に参加している。年1回以上は職員が必ず研修に参加できるようにしている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の地域ケア会議のほか、西北五グループホーム協会に加入しており、年4回の研修に参加した際等に情報交換をしている。また、他事業所の行事に参加し、交流することでサービス向上に活かしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気にならに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に事前に事業所を見学していただき、事業所の雰囲気を感じてもらっている。入居の際は、馴染みの家具を持ってきてもらったり、面会の回数を多くしてもらうなど、家族の協力も得ながら徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は喜怒哀楽を共にし、お互いが協働しながら生活している。入居者は職員から相談を受けたり、職員は入居者から行事や生活習慣について教えていただくなど、共に生活している家族として支え合う関係が築かれている。		

外部 評価		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や行動から本人の意向を把握するように努めている。本人から聞かれた意向は職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向、希望を基に、主治医、管理栄養士、看護師からも助言を得ながら介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、介護計画の見直しをしている。状態の変化や本人、家族から要望があった際には関係者と話し合い、再アセスメントし、新たに介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一時帰宅や買い物、ドライブ等、本人や家族の希望に応じて柔軟に支援している。		

外部評価		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続している。急変の時のため、緊急受入れ病院を主治医、家族と相談して決めている。医療連携体制ができており、医師、看護師にいつでも相談することができる。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人、家族から意向を伺っている。状況に変化があれば、本人、家族、主治医と何度も話し合いをし、関係者全員で方針を共有して支援している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の生活歴や性格を把握し、本人の尊厳を傷つけないような対応、声掛けをしている。	○	ケアプランやケース記録等、個人に関する情報や記録の管理には十分留意し、鍵の掛かるキャビネット等への保管が望まれる。
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活パターンは決まっているが、個々のペースを尊重し、外出や買い物等本人の希望を優先して支援している。		

外部 評価		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
				(取り組みを期待したい項目)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛りつけ、片付け等は入居者の意向を汲み、共に行なっている。昔ながらの味付けを教えてもらうなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。		
26	54	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望により、週2～4回、午後に入浴されている。体調にも配慮しながら、本人の希望に合わせた入浴支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の趣味、生活歴等を把握し、トマト、茄子などの野菜作りや台所仕事、洗濯物たたみ等楽しみながら行うことで自然に役割ができており、喜びのある生活への配慮がされている。		
28	58	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の神社や公園への散歩、買い物等、本人の希望にそった支援をしている。		

外部 評価		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを作成し、職員に周知している。環境整備や見守りを行うことで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけていないが、裏口は家族の了解のもと、鍵を掛けることもある。外出される入居者には職員が付き添う等、見守りをしている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を実施している。運営推進会議のメンバーや近隣の方々にも避難訓練に参加してもらい、災害時の協力体制ができています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により献立が作成され、それにそって食事が作られている。一人ひとりの食事量、水分量を毎日記録し、不足している方には補食・補水をするなどして健康管理に努めている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが作成されている。入居者、職員共に手洗い、うがいを徹底し、また、身の回りの物の消毒を行う等、感染症予防に努めている。		

外部 評価		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内には季節ごとに作成する入居者の作品や季節の花、観葉植物を飾り、季節が感じられるよう工夫している。光や音、温度にも配慮し、居心地良く過ごせるよう工夫されている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持ってきてもらい、配置も入居者と相談しながら行うなど、居心地の良い居室となるよう工夫している。		

 は、重点項目。